夢のノドグロ資源の増大に挑む！　～取り組みの第一歩～

栽培・深層水課
主任研究員　飯田　直樹

１　背景・ねらい

ノドグロ（標準和名：アカムツ）は全国的に味の良さから有名な高級魚であり、県内漁業者等からも漁獲量増加のための種苗放流をとの要望がある。しかし、種苗生産の実績はなく、国内数カ所の水族館で展示飼育されている程度で、飼育がとても難しい魚種である。

本発表では、要望に応えアカムツが栽培漁業対象種と成り得るかを検討するため、富山県における漁獲状況、飼育に関する基礎的知見の収集を行うとともに、親魚の飼育に取り組み始めたのでその概要について報告する。

２　成果の概要

富山県のアカムツ漁獲量は近年 13.5 トン程度である（図１）。漁具・漁法別の割合は、刺網での漁獲量が 7 割程度と最も高く、次いで、定置網、底びき網であった（図２）。

滑川市場において、平成 21 年から 23 年までの 3 年間、アカムツの大きさを測定した（図３）ところ、漁獲の主体は 23 ㎝～32 ㎝であった。

親魚の飼育にあたり、文献および聞き取りにより国内の飼育状況を調査したところ、試験研究機関で 2 機関、水族館で 3 機関での飼育例があった（表１）。

当所での飼育には、漁業者に生きた状態で捕獲してもらった 5 尾と、栽培漁業調査船「はやつき」で釣獲した 2 尾を飼育に供した（図 4）。

飼育開始の水温は、釣獲調査時の分布水深帯の水温と、これまでの知見から 14～15℃とした。その後は、富山湾の水温低下に合わせて低下させ、現在は 11～13℃程度で飼育している。

餌付けには竿先に結んだ釣り糸の先端に餌を結び、アカムツの目の前で誘う“釣り方式”が有効であった。一度餌付いたアカムツは、徐々に、餌をアカムツの目の前に投げ入れる“投餌方式”でも食べるようになった。

３　成果の活用面・留意点

現在、栽培漁業対象種に向けての検討を始めたばかりであり、長期間の親魚飼育が行えるかの可能性を探っているところである。

しかし、アカムツについては、生態や飼育について不明な点が多いため、今後種苗生産から放流に至るには課題が山積みであるが、当面①親魚の確保、②受精卵の確保、③ふ化仔魚の育成について技術開発を図りたいと考えている。

さらに、アカムツ資源の増大に向けた今後の課題として、①資源生態、②資源管理の検討、③産卵場、育成場の保護についても考えていく必要がある。

今は夢のような話であるが、富山湾のアカムツ資源の造成を目指して取り組んでいきたい。

４　問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所　栽培・深層水課
担当：主任研究員　飯田直樹
TEL　076-475-0036

（参考）具体的データ

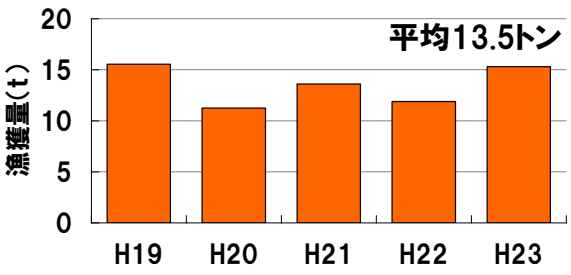

図１　県内におけるアカムツ漁獲量の推移

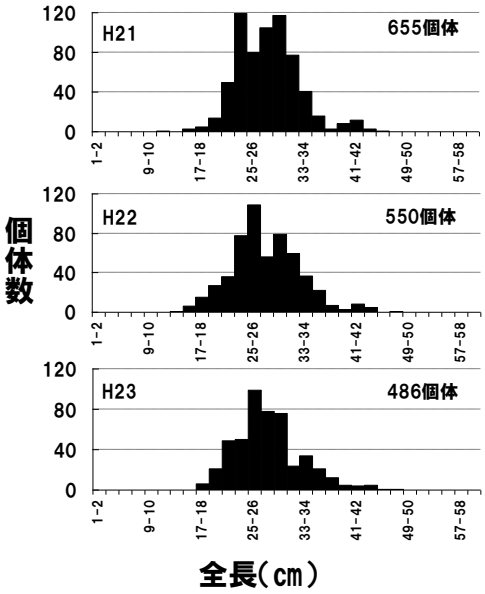

図３　滑川市場におけるアカムツの全長組成（年別）

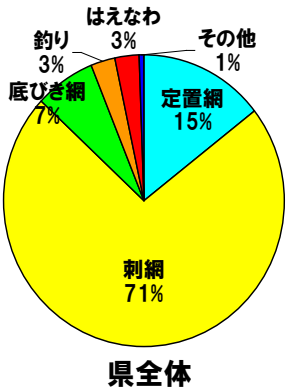

図2　県内におけるアカムツ漁獲量の漁法別割合

表１　国内におけるアカムツ飼育の現状

飼育機関	飼育年	捕獲方法	収容尾数	全長（cm）	飼育日数	えさ
山形県水産試験場	H9	はえなわ	13	23.5～36.9	20～220日間	生きた小アジ！？
日本栽培漁業協会（南伊豆）	H13	釣り	20		最長480日	アジ・イカ切身 オキアミ
アクアス（島根県）	H23	底びき網	数尾		最長半年程度	アジ・イカ切身
マリンピア日本海（新潟県）	H22～飼育中	刺網	4	10～20	約1年5か月	オキアミ
アクアワールド大洗（茨城県）	10年間常に展示	はえなわ	20		個体識別なく不明	オキアミ、カタクチイワシ・アジ切身

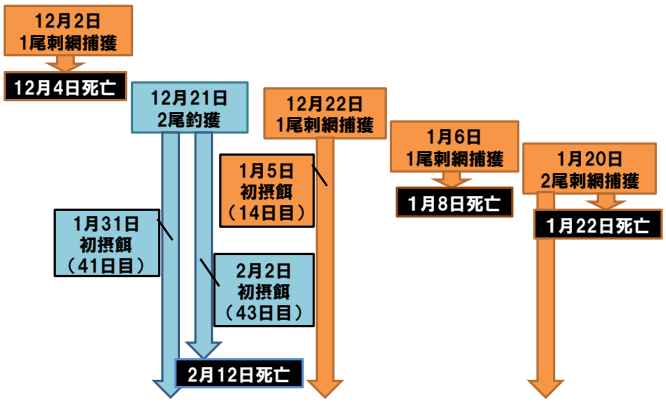

図４　水産研究所におけるアカムツの飼育歴